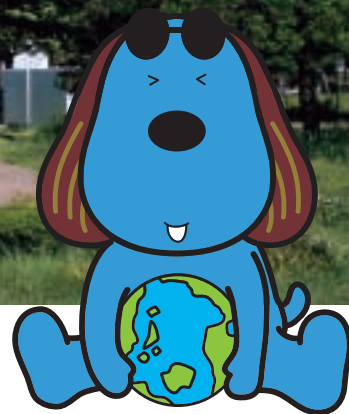


FUJI TV REPORT

第66期報告書 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで



COVER



臨海副都心スタジオ (仮称)
※ P 13～特集記事があります。

Contents

第66期 報告書



- | | | | |
|-----------|-------------------------------------------------|-----------|-------------------------------------------------|
| 2 | Top Message
ごあいさつ | 15 | Consolidated Financial Statements
連結財務諸表 |
| 3 | Top Interview
トップが語るフジテレビ | 18 | Non-Consolidated Financial Statements
個別財務諸表 |
| 7 | Fuji TV Outline
フジテレビアウトライン | 19 | Group/Network
グループ・ネットワーク |
| 11 | Corporate Social Responsibility Report
CSR通信 | 20 | Our Group Companies
グループ会社紹介「(株)ニッポン放送」 |
| 13 | Special Report
新スタジオ紹介 | 21 | Corporate Data
会社概況 |
| | | 22 | Investor Information
株式情報 |



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当期の日本経済は、素材産業や輸出企業を中心とした企業収益の拡大を背景に設備投資の増加や雇用情勢の改善が見られ、引き続き景気回復基調にある一方で、個人消費に好況感が見られず、広告市況も伸び悩んだ一年となりました。こうした環境のなか、昨年4月より、当社を事業持株会社とする連結経営体制へ移行、あらゆる環境変化にも対応し、持続的に成長する強靱な経営基盤の確立に取り組んでまいりました。

おかげさまで当社は当期においても番組視聴率トップを堅持し、3期連続の四冠王を達成、月間三冠王も11回達成することができました。ドラマ、バラエティ、情報、スポーツそして報道のすべての分野の番組で偏りなく視聴者の皆様からご支持を頂いております。当社といたしましては引き続き、報道機関として国民・視聴者の皆様に正しい情報を送り届けるとともに健全な娯楽を提供し、広く公共の利益に資することを使命と認識し、皆様の信頼に応えてまいりたいと思っております。

当期連結業績につきましては、主力の放送事業が収入面では好調であった前期実績に届かず、また減価償却費の増加などによる放送事業原価の増加により減収減益となるほか、通信販売事業やその他事業の不振もあり、減収減益となりました。本年9月からのいよいよ臨海副都心スタジオ(仮称)が稼働しますが、

当社グループのメインエンジンであるコンテンツ力をなお一層高め、視聴率の向上はもとよりコンテンツから生まれる権利ビジネスなどのグループ事業のさらなる伸長を図ってまいります。

すでにご案内の通り、この度当社は執行体制の変更、代表取締役社長の交代を行うことといたしました。今後、メディア産業が激動期を迎えるにあたり、引き続き業界のリーダーとして当社及び当社グループの経営基盤をさらに強化し、成長ビジョン実現に向けさらなる飛躍と発展を期すものです。ここ数年、放送行政上の枠組みや制度変更、放送と通信のあり方の問題などについて様々な議論が活発化している中、ブロードバンドにおける動画配信サービスの普及や、昨年12月には地上デジタル放送が全国で開始されるなど、当社の事業環境も大きく変化しつつあります。当社といたしましては、引き続き、環境の変化にも即応し多様なメディアへ魅力ある良質なコンテンツを供給する最強のデジタル・コンテンツ・ファクトリーを標榜し、コンテンツから生まれる収益機会の拡大を図り、企業価値を高めていくことを目指します。

ここに、平成18年度の事業概況をご報告いたします。今後も株主の皆様のご期待に応えることができますよう、着実な成長をめざしてまいりますので、一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月



当社を取り巻く事業環境は日々変化しております。フジテレビは日本のメディア・コンテンツ産業のリーディングカンパニーとして、力強く持続的成長を図りながら、魅力あるコンテンツをお届けし、株主の皆様のご期待に応えてまいります。

従来の経営方針を継続し、チャレンジ精神をもって中期経営計画の達成に向け、当社グループ社員一丸となって取り組む所存です。

ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 **豊田 皓**

ダイジング事業などのその他事業収入も全体として前期に対し減収となりました。費用面では減価償却費の増加等により営業費用が前期を上回り、その結果、営業利益、経常利益は減益となりました。当期純利益につきましては前期に計上された特別損失の減少により、大幅増益となりました。

➔ **視聴率が好調ですが、それぞれの番組ジャンルごとの状況を教えてください。**

当期の番組視聴率は、視聴者のご支持を得てゴールデン（19時～22時）、プライム（19時～23時）、全日（6時～24時）、ノンプライム（6時～19時・23時～24時）の4つの時間帯で、いずれもトップの視聴率を獲得し3期連続の「四冠王」となりました。

連続ドラマでは、「トップキャスター」が平均視聴率18.4%、「のだめカンタービレ」も18.9%と高視聴率を記録し、「Dr.コトー診療所」が平均視聴率22.3%、最終回25.9%の高視聴率を記録しました。また単発スペシャルドラマでは、30.9%を記録した「HERO」をはじめ、アニメ実写化ドラマ「ちびまる子ちゃん」や旭山動物園の再生を描いた「奇跡の動物園」、「佐賀のがばいばあちゃん」など、高視聴率話題作により他局を圧倒しています。バラエティ番組はフジテレビコンテンツの顔として、ますます勢いを増しています。「ネプリーグ」「はねるのトビら」「クイズ！ヘキサゴンⅡ」などがまさにフジテレビらしいバラエティ番組として定着し、「HEY!HEY!HEY!」「SMAP×SMAP」「ココリコミラクルタイプ」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「幸せって何だっけ」「めっちゃイケてるッ!」などが堅調であることに加え、昨秋からスタートした「ザ・ベストハウス123」「水10！オリキュン」による層

➔ **フジテレビの当期の業況について聞かせてください。**

おかげさまで当期も、前期の勢いそのままに視聴率のトップを堅持し3期連続の「四冠王」を達成することができました。放送収入につきましては上期に広告市況の落ち込みがあり、下期は12月からスポット市場に勢いが戻りましたが、通期ではわずかに前年に届かず減収となりました。また映画、イベント、DVD、マーチャン

の厚い布陣が「四冠王」に大きく貢献しています。情報番組では、「とくダネ！」が平成13年2月以来74ヶ月連続で月間平均視聴率トップの座を堅持し、若者のトレンドの牽引役である「めざましテレビ」も好視聴率を維持しています。「めざましどようび」発の映画「にゃんこ THE MOVIE」等3作品もDVDが16万枚売り上げ大ヒットとなりました。夕方のニュース時間帯で5年連続視聴率トップの座を独走中の「FNNスーパーニュース」をはじめ、昼の「FNNスピーク」、夜の「ニュースJAPAN」など報道番組も高いご支持を頂いております。スポーツ番組では、本年3月の「世界フィギュアスケート選手権」は国民的な話題を呼び、瞬間視聴率50%を超えるなど驚異的な視聴率をマークしました。また、昨夏の「女子バレーボールワールドグランプリ」、本年2月の「東京マラソン」も好視聴率となり、「サッカーW杯ドイツ大会」「F1」など国際的なビッグ・イベントの中継も好評で、『ワールドスタンダードのスポーツ中継はフジテレビ』と強くアピールすることができました。

このようにどのジャンルにおいても偏りなく視聴者の皆様の熱い

ご支持を頂いており、当期においてもフジテレビの圧倒的なコンテンツ制作力をいかに発揮することができました。

➔ 当期のフジテレビの単体業績を教えてください。

売上高は、前期比1.0%減収の3,778億75百万円、営業利益は、前期比11.3%減益の352億94百万円、経常利益は、前期比4.7%減益の381億65百万円となりました。当期純利益は309.4%の増益で239億4百万円となり、過去最高となりました。

当期における放送事業収入のうち、ネットタイムセールスはレギュラー番組が前期を上回りましたが、単発番組で前期「トリノオリンピック」の減収分などがあり、0.2%の減収となりました。ローカルタイムセールスは1.2%の増収でした。スポットセールスは、上期は、広告市況の伸び悩みを反映し、各月において前期を下回りました。下期は、12月以降スポット市況に勢いが戻ったものの、通期では上期のマイナスを補いきれず、前期比2.1%の減収でした。

👉 用語解説

● タイムセールス

番組提供スポンサーとなるCM放送枠のセールスです。CMは、提供する番組の放送枠内で放送され、番組では、「提供」としてスポンサー名が表示されます。

※ ネットタイムセールス

タイムセールスのうち、全国の系列局に同時に流すCM放送枠のセールスです。

※ ローカルタイムセールス

タイムセールスのうち、放送が当社の放送エリア（関東地区）に限られる番組の提供を対象とするセールスです。

● スポットセールス

主に番組と番組の間に放送されるCM放送枠のセールスです。広告主は、放送期間や時間帯などを任意に指定することができます。タイムセールスと比べて、市況性が高いセールスと言えます。

その他放送事業収入では、CS事業の視聴料収入と番組販売収入の増加により1.7%の増収となりました。その他事業収入については、DVD販売が好調で、ドラマ・バラエティー番組の他、「ドラゴンボール」シリーズなどのヒットにより増収となりました。一方、映画事業では「LIMIT OF LOVE 海猿」が昨年の邦画実写部門1位の大ヒットとなり、念願のアニメ映画への本格参入である「ブレイブストーリー」も好評で堅調に推移しましたが、好調であった前期実績に及ばず、減収となりました。また、イベント事業、MD事業も堅調でしたが、前期開催された大型イベントに見合うものがなく減収となりました。これらにより、その他事業収入は前期比で2.4%の減収となりました。

一方、費用の面では、減価償却費の増加などにより放送事業原価が増加しました。

→ **当期の連結業績を教えてください。**

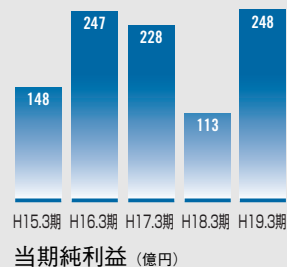
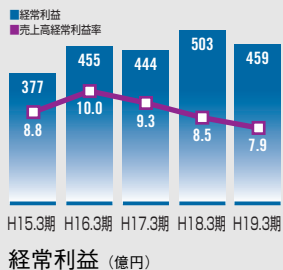
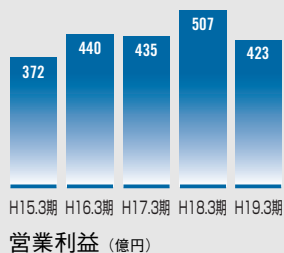
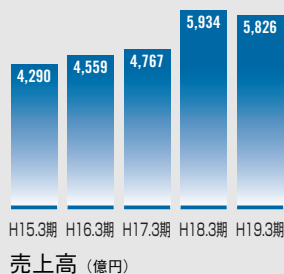
当期の連結売上高は前期比1.8%減収の5,826億60百万円となりました。営業利益につきましては、放送関連事業で増益となったものの、放送事業の減益に加え、通信販売事業やその他事業の不調もあり、前期比16.6%減益の423億25百万円となり、経常利益は、前期比8.6%減益の459億95百万円となりました。当期純利益は前期に計上された特別損失の大幅な減少などにより前期比119.0%増益の248億46百万円となりました。

→ **平成20年3月期の見通しを聞かせてください。**

当期実績に対し、単体・連結ともに売上は増収を見込みますが、経常利益では減益を予想しております。

フジテレビ単体の業績については、放送収入について下期からの

FINANCIAL HIGHLIGHTS 連結財務ハイライト



回復基調を踏まえ、現状を維持しつつ安定的に推移するものとし、放送外の映画・イベント・DVD（ビデオ）事業などは映画「西遊記」「HERO」やシルク・ド・ソレイユ「ドラリオン」公演には大いに期待しておりますが、現状ではほぼ前年並みと見ております。一方、費用面では、番組制作費は現行水準を維持しながらも、新スタジオの稼働に伴う減価償却費等の増加などを想定しており、通期としては微増収減益と予想しております。

連結業績につきましては、通信販売事業の黒字転換、映像音楽事業の増益を見込めるなど回復基調にあります。通期予想としては、単体同様微増収減益の売上高5,860億円、営業利益341億円、経常利益373億円、当期純利益210億円をそれぞれ見込んでおります。

→ 当期に行った組織変更、グループ再編について教えてください。

当社は昨年4月より、当社を事業持株会社とする連結経営体制へ移行しました。

同6月には、当社組織を一部改組し、当社を中核にして経営資源の選択と集中を機動的に実行するために「経営企画局」「グループ事業推進局」を新設しました。また、コンプライアンス、CSR（企業の社会的責任）及びJ-SOXの専門部署の新設・社内プロジェクトの発足により、法令遵守・企業の社会的責任推進体制の強化を図っております。

本年3月、グループ再編の一環として(株)ポニーキャニオン及び(株)扶桑社の完全子会社化、並びに当社の関連会社である(株)ビーエスフジの株式追加取得を実施いたしました。また、当社の子会社である(株)ビッグショット、(株)フジサンケイアドワーク及び(株)ティーコムコ

ーポレーションと、芙蓉グループ6社と当社グループの合併会社である(株)富士アドシステムとの合併につき基本合意書を締結しました。今後も引き続き、グループ各社のパワーと創造性を最大限に発揮し、高い競争力を持つメディア企業集団としてさらに発展していきたいと考えております。

→ 「中期経営計画」の概要と達成状況について聞かせてください。

昨年11月20日、当社は、2006年度から2011年度までの「中期経営計画～もっとフジテレビ計画～」を発表しました。この計画は、<どんなに新しいメディアや技術が進歩しても、フジテレビはコンテンツをエネルギーの源泉としてさらなる成長を目指す>という“強い意志”と、その成長性を具体的に表す“目標数値”を皆様に表明するものです。

目標数値は、2011年度の「グループ連結売上高」を7,000億円、同じく「連結経常利益」を700億円といたしました。この数値は、計画期間直前の2005年度実績に対しては、売上1,000億円の増収を図り、経常利益200億円の増益を図るという大変高い目標設定です。この700億円の連結経常利益目標を達成させるために、広告収入を安定的に増収させながら、広告外収入の成長を促し、さらに新たな収益を生み出すための新規事業の開発にも取り組んでいきます。

中期経営計画発表後初めての決算で減収減益という結果でしたが、中期経営計画における成長シナリオに変更はございません。今期は新スタジオの稼働などによるコンテンツ制作力のさらなる強化とコスト管理を徹底し、グループ会社の立て直しを図り、2011年度の目標必達に向け、事業基盤を磐石にしていきたいと思います。

Fuji TV Outline

フジテレビアウトライン

Broadcasting 放送事業&放送関連事業

▶ TV Program テレビ番組

平成18年度は引き続き、高い視聴率を維持することができました。ゴールデン（19時～22時）、プライム（19時～23時）、全日（6時～24時）、ノンプライム（6時～19時及び23時～24時）の時間帯で、いずれも関東地区においてトップの視聴率を獲得し、3期連続の四冠王となりました。



のだめカンタービレ

DRAMA

ドラマ番組では、月曜21時のドラマ枠“月9”の「トップキャスター」や「のだめカンタービレ」がヒット。「Dr.コトー診療所」が全話平均視聴率22.3%の高視聴率を記録し、「北の国から」に続く国民的ドラマとしての存在感を強く印象付けました。スペシャルドラマでは視聴率30.9%を記録した「HERO」や名物番組

「世にも奇妙な物語」のほか、「奇跡の動物園～旭山動物園物語～」「佐賀のがばいばあちゃん」など旬な話題を取り上げた番組が人気となりました。

SPORT

スポーツ番組では、「サッカーW杯ドイツ大会」「女子バレーボールワールドグランプリ2006」、首都で初めて行われた参加者3万人規模の市民マラソン「東京マラソン2007」、3月に東京で開催され、視聴率38.1%を記録した「世界フィギュアスケート選手権」などが高い視聴率を獲得したほか、「ジャンクスports」「すぽると！」など、スポーツ関連のレギュラー番組も好調に推移しました。



世界フィギュアスケート選手権2007東京

ザ・ベストハウス123



VARIETY

バラエティ番組では、「ネブリーグ」（アジアン・テレビジョン・アワード2006受賞）「はねるのトびら」「クイズ！ヘキサゴンⅡ」などがフジテレビらしいバラエティ番組として定着しパワーを爆発させる中、「HEY!HEY!HEY!」「SMAP×SMAP」「コリコミラクルタイプ」「とんねるずのみなさんのおかげでした」「幸せって何だっけ」「めっちゃイケてるッ！」も依然好調。昨年10月には「ザ・ベストハウス123」「水10！オリキュン」が新たにスタート。プライムのタイムテーブルに層の厚い布陣を組みました。23時台では「あいのり」「タモリのジャポニカロゴス」「VVV6」「メントレG」「新堂本兄弟」の強力コンテンツ群で他局を圧倒、お昼は「笑っていいとも!」「ライオンのごきげんよう」が皆様に愛され続けていることもバラエティ制作力の強さを裏付けています。



FNNスーパーニュース

「FNNスーパーニュース」は、夕方のニュース激戦区で5年連続視聴率トップを独走中。昼の「FNNスピーク」もキャスター陣を一新、視聴率トップの座を奪還したほか、夜の「ニュースJAPAN」も、滝川クリステルが「夜ニュースの顔」として定着し、視聴者の高い支持を得ました。単発番組では、「天オダ・ヴィンチ最大の謎と秘密の暗号」が22.0%の視聴率を獲得。教育ドキュメンタリー「居場所をください～傷だらけの子供達～愛と涙の密着1000日」(15.6%)では、傷つきさまよう子供達の心の内側に迫り、大人達がどう向き合うべきかを訴えました。

NEWS

「FNNスーパーニュース」は、夕方のニュース激戦区で5年連続視聴率トップを独走中。昼の「FNNスピーク」もキャスター陣を一新、視聴率トップの座を奪還したほか、夜の「ニュースJAPAN」も、滝川クリステルが「夜ニュースの顔」として定着し、視聴者の高い支持を得ました。単発番組では、「天オダ・ヴィンチ最大の謎と秘密の暗号」が22.0%の視聴率を獲得。教育ドキュメンタリー「居場所をください～傷だらけの子供達～愛と涙の密着1000日」(15.6%)では、傷つきさまよう子供達の心の内側に迫り、大人達がどう向き合うべきかを訴えました。

アイドルリング!!!



CS

CS放送 フジテレビ721+739 (有料放送) は、契約者数が160万件を突破しました。コンテンツ面では、F1中継で土曜・日曜の全てのセッションの完全生中継、東京ヤクルトスワローズ主催の全試合をプレーボールからゲームセットまで生中継するなど、視聴者のニーズに合わせたプログラム編成を行いました。また、昨年10月には、放送とインターネットの連携を目指すアイドル育成番組「アイドルリング!!!」を開始するなど、新たな取組みにも挑戦しています。

LIFE INFORMATION

日々のニュースを多角的視点から検証し、分かりやすく伝える朝の情報番組「とくダネ!」は引き続き好調で、月間平均視聴率は74ヶ月連続1位となっています。「めざましテレビ」は若者のトレンドの牽引役として、好視聴率をキープ。「めざましどようび」発の映画は「にゃんこ THE MOVIE」等3作品のDVDの売上が16万枚を突破するなど異例のヒットとなっています。また、ドキュメンタリー分野でも「サイエンスミステリー それは運命が奇跡か!? 第5弾」が18.0%の高視聴率を獲得、「最強ドクターが救った命と家族の絆SP」も先端医療を扱った番組として高い評価を得ました。

とくダネ!



高視聴率番組

2006年4月3日から
2007年4月1日まで

*同一番組は最高視聴率のみ掲載

番組名	放送日	放送開始	視聴率
レギュラー番組			
1 木曜劇場・Dr.コトー診療所2006・最終回	2006/12/21	22:00	25.9%
2 SMAP × SMAP	2007/1/22	22:00	23.5%
3 サザエさん	2006/5/7	18:30	23.4%
4 トップキャスター	2006/4/17	21:00	23.1%
4 めちゃ2イケてるッ!ピンチこそチャンスだ 目標20周年スペシャル!	2006/10/7	19:00	23.1%
特別番組			
1 世界フィギュアスケート選手権2007東京・女子フリー	2007/3/24	21:00	38.1%
2 HERO	2006/7/3	21:00	30.9%
3 世界フィギュアスケート選手権2007東京・女子ショートプログラム	2007/3/23	21:00	28.9%
4 2006全日本フィギュアスケート選手権・女子シングルフリー	2006/12/29	19:00	27.2%
5 東京マラソン2007	2007/2/18	9:00	23.6%

▶Radio ラジオ

平成18年度もニッポン放送はラジオナイターで聴取率第1位を獲得するなど、ラジオコンテンツが堅調な支持を得ました。出版分野では番組の人気コーナーから誕生した「車いすのパティシエ」が10万部を超える大ヒットを記録。そして昨秋、日比谷公園で開催したリスナー感謝祭「ザ・ラジオパーク」では、2日間で10万5千人を動員。リスナーとの交流を通し、ニッポン放送の底力を力強く印象づけました。



ニッポン放送「ザ・ラジオパーク」

▶Event イベント

平成18年度は海外から「ボローニャ歌劇団」「BON JOVI」「BILLY JOEL」を招聘する一方、「嵐」は韓国・台湾で、ダンス公演「ソワレ」はパリ・香港・上海など海外で好評を博しました。この他、349



ダリ回顧展

「記憶の固執の崩壊」 1952-54年

Worldwide © Salvador Dalí, Fundació Gala-Salvador Dalí, SPDA, Tokyo 2006

In the USA: ©Salvador Dalí Museum Florida/ Tokyo

サルバドール・ダリ美術館所蔵

万人が訪れた「お台場冒険王」などの社屋イベントや「米米CLUB」再結成全国ツアーなどが人気となりました。また、生誕100年記念「ダリ回顧展」は開催104日間で入場者50万人を突破し、芸術文化振興にも貢献しました。

▶Movie 映画

フジテレビ製作の映画は昨年5月公開の「LIMIT OF LOVE 海猿」が興行収入71億円を記録し、平成18年の邦画実写部門ナンバーワンとなりました。その後、日本アカデミー賞会長功労賞を受賞、昨年末に発売されたDVDも18億円の売上をあげました。この他、オリジナルアニメ映画「ブレイブ ストーリー」、フジテレビの特色である人気ドラマを映画化した「大奥」「アンフェア」などが好調。また、「チケラッチョ!!!」「UDON」「シュガー&スパイス〜風味絶佳〜」「それでもボクはやってない」「バブルへGO!!!〜タイムマシンはドラム式〜」といった個性豊かなラインナップも、フジテレビ映画の幅の広さをアピールし、観客層の拡大に貢献しました。



「LIMIT OF LOVE 海猿」

▶Rights Business ライツビジネス

映像ソフト事業は引き続き好調でした。作品別では「ドラゴンボール」シリーズ関連の49億円を筆頭に、「るろうに剣心 DVD-BOX」「リチャードホール」シリーズ、「1リットルの涙」「Dr.スランプ アラレちゃん DVD-BOX」などアニメ、バラエティ、ドラマとバランスよく多くのヒット作品が生まれました。

番組関連商品では、サンリオとコラボレートした「ゴリエキティ」やドラマ「のだめカンタービレ」の鍵盤バッグなどが大ヒット、「めっちゃイケてるっ!」「はねのトびら」「IQサプリ」のグッズも好調でした。また、社屋1階にオープンした「サザエさんのお店」も大好評を頂いております。



サザエさんのお店

Direct Marketing 通信販売事業

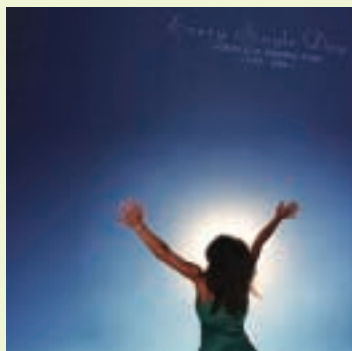


ディノス物流センター

通信販売事業のディノスは、売上が低調でしたが、その中でインターネット部門の伸長が目立った一年でした。若い女性をターゲットとしたサイトの立上げなどで、前年比120%と伸びを見せました。その他、ファッション関係では「リカコスタイル」の健闘が目立ちました。

また、従来、アウトソーシングをしていた物流面では、16,000坪規模の自社物流センターを昨年10月に東京都町田市に立上げ、配送システムの質的向上を目指し、顧客サービスの充実を図る基盤を整えました。

Video & Music 映像音楽事業



「Every Single Day
— Complete BONNIE PINK (1995–2006)—」

ポニーキャニオンからの音楽作品では、aikoアルバム「彼女」、映像部門では「LIMIT OF LOVE 海猿」「パイレーツ・オブ・カリビアン/デッドマンズ・チェスト」といった作品が売上に大きく貢献しました。

また、フジバシフィック音楽出版では、音楽著作権の管理・開発事業を行っており、オフコース、BONNIE PINK、ウルフルズのベストアルバム、レミオロメン「粉雪」、BONNIE PINK「A PERFECT SKY」、ダニエル・パウター「バッド・デイ」等の楽曲がヒットしました。

Other 其他事業



「東京タワー
オカンとボクと、時々、オトン」

出版事業では、扶桑社から発行された単行本「東京タワー オカンとボクと、時々、オトン」が、テレビドラマや映画との連動で重版発行部数が当期では93万部（総発行部数は213万部）と、大きな売上を記録しました。

また、フジミックはグループで唯一のIT企業としてフジテレビのシステム構築で培った技術力を基に積極的なグループ外営業活動を行っています。一般企業のシステム構築やネットワーク構築、化粧品会社向けの肌測定器の開発・製造、官公庁向けのWEBシステムの開発・運用や交通量推計業務などで実績をあげています。

まじめ、はじめました。



CSR活動を本格的にスタート

2006年6月にCSR推進室を新設、10月には社長を委員長とするCSR推進会議を立ち上げ、放送業界としては初の本格的なCSR活動体制をスタートさせました。

これまでもフジテレビは放送事業者として、公共的使命・社会的責任を認識し、視聴者の信頼に応えるべく、番組や映画、イベント等質の高いコンテンツを社会に提供するよう真摯に努めてきました。

さらに、コンプライアンスや環境活動、社会貢献活動などでも従来以上に活動を強化し、より多くの利害関係者（ステークホルダー）の期待に応え、メディア企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。



番組でのCSR分野

フジテレビは、メディアの特性を活かし、チャリティ番組のほか、教育や医療問題を一週間にわたって重点的に取り上げ、番組内での社会貢献を積極的に推進しています。

● あいのり

世界中を旅する「あいのり」では、エイズ、飢餓などの社会問題をレポート。その一方で、恵まれない子供たちのために番組を通じて募金を呼びかけ、現地に学校を作る等の活動を支援しています。



「あいのり基金」によって建てられたカンボジアの学校

社会貢献分野

フジテレビは企業活動を通じた社会への還元を常に意識し、芸術・文化活動、チャリティ活動、スポーツ支援活動、地域活性化活動、海外災害支援等メディアの特質を活かした社会貢献活動を推進しています。

● 世界文化賞

財団法人日本美術協会によって1988年に創設。全世界の絵画、彫刻、建築、音楽、演劇・映像の各部門で優れた業績を上げた芸術家に対する顕彰制度を毎年実施しています。

「お台場議定書2007」の策定

フジテレビは、地球環境について「考え」「行動し」「確かめる」ことを始めます。そのためのフジテレビ環境行動計画を「お台場議定書2007」と名付けました。

環境破壊というモンスターは、地球上のあらゆる場所、時間に現れています。こうしている間も、身近な生活の中の「災害」「ゴミ」「食べ物」「空気」「水」などの問題は、じわじわと世界中に影響を及ぼし、地球の温暖化や大規模な気候変動、生物種の絶滅などを引き起こしているのです。

今、地球環境のために始められることは何かをまず

考えましょう。そして、身近な生活の中で一人一人が出来ることから行動し、その結果と一緒に確認しましょう。

フジテレビは、これまでもテレビ放送や各種イベントを通じて地球環境保全の重要性、緊急性を伝えてきました。また、企業としても環境に配慮した活動を行ってきました。

フジテレビは、「お台場議定書2007」に基づき、「今、はじめよう!」をテーマに全力を挙げて環境対策に取り組んでいきます。

「お台場議定書2007」 — 今、はじめよう! —

一緒にエコ考えよう

フジテレビは、テレビ番組や各種のイベントなどメディアを通じて地球環境の保全や身近なエコ活動について情報の提供を行い、地球環境の重要性、緊急性について一緒に考えていきます。

一緒にエコしよう

フジテレビは、日々の企業活動で環境負荷の小さな放送設備、機材の導入、ごみ分別の徹底、リサイクルの推進、グリーン調達を促進やチーム・マイナス6%に参画するなど省エネルギー、省資源などのエコ活動と一緒に行動していきます。

一緒にエコ確かめよう

フジテレビは、温暖化ガス削減やごみ分別などについて、目標を定めて活動し、その結果を公表します。さらに、世界の環境活動などの情報を提供し、地球環境保全の成果と一緒に確認するとともに、継続してエコ活動を進めていきます。



世界文化賞

環境分野

地球環境保全の観点から、CO₂削減、廃材リサイクルスタジアオセットの開発、放送設備の省エネ化等企業として環境活動に取り組みとともに、視聴者にも地球環境の重要性をアピールしています。

● ゴミ分別運動の展開

リサイクルの推進に必要なゴミ分別処理を徹底するため、社内対抗形式の「ゴミ分別100%たすきリレー」を行い、分別率向上運動を展開しました。この結果、リサイクル率は、月単位で約97%へと飛躍的な改善を達成しました。



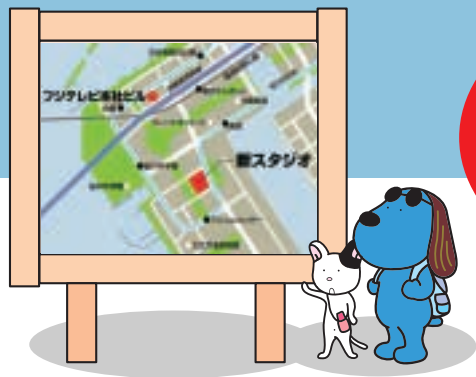
社内「ゴミ分別100%たすきリレー」

フジテレビ開局50周年記念事業

New Studio Open!

臨海副都心スタジオ(仮称)のご紹介

最新のスタジオ機能と環境にも配慮した
フジテレビ第2のランドマーク



企画から収録・編集までの
コンテンツ制作一貫体制の構築

“創造性・作業効率・費用効率の向上”
“コンテンツの質的向上=ヒット作の増産”

“台場のランドマーク化”
お台場活性・集客効果

□ 建築概要

建築用途：テレビスタジオ・事務所・店舗
建築規模：地下1階、地上7階、塔屋3階
敷地面積：19,373.41m²
建築面積：15,180.64m²
延床面積：71,060.65m²
容積率：298.89%（許容300%）
地域・地区：準工業地域、都市再開発法・2号地区（臨海副都心）、臨海副都心青海地区地区計画地域
最高高さ：64.5m
駐車台数：237台
工期：2005年3月～2007年3月

□ 設備概要

スタジオ数：8スタジオ（バラエティ、ドラマ収録用など）
スタジオ面積：約1,000m²×4、約700m²×4
編集エリア：サーバー収録ノンリニア編集を中心に構築
出演者エリア：出演者個室、リハーサル室、メイク室等
美術エリア：大道具倉庫、小道具倉庫、衣装倉庫等
食堂エリア：レストラン・コンビニエンスストア
一般見学エリア：番組関連の展示施設、イベントスペース

ドラマ、バラエティから、モバイルコンテンツまで…。多様化するメディアにも対応する最新の放送設備を導入したフジテレビの新スタジオです。基本コンセプトは、社外スタジオや編集所を使わずに企画、収録、編集、仕上げを一貫して行える「デジタル・コンテンツ・ファクトリー」。

設備が優れているだけでなく、開放感あるアトリウムなど、制作現場のアメニティにも配慮しています。

また、1階や屋上には魅力あふれる見学施設などを設け、本社ビルと同様の賑わいを創出、屋上の植栽や自然換気が可能な2層のガラスによる外装など、建物全体で地球環境に配慮しています。



環境配慮型

新スタジオでは、環境負荷を低減するため最新の環境配慮技術が導入されています。

●外壁・ダブルスキン構造の導入

外壁をガラスの2重構造として、外部からの進入熱負荷を軽減し、さらに自然換気システムを導入することで、空調効率の向上と省エネを促進します。

●温度成層形成空調システムの導入

4層吹抜け(天井高さ27m)のスタジオ大空間に温度成層形成空調システムを導入し、省エネを促進します。

●屋上緑化の導入

屋上を庭園化し緑化することにより、外部からの進入熱負荷を軽減し、省エネを促進します。

地域活性化

新スタジオでは、1階と屋上庭園に一般見学エリアを設け、年間4,200万人が訪れる臨海副都心のさらなる活性化に寄与し、本社ビルに続く、第2のランドマークを目指して本社ビル一般見学コースと連動した、番組関係の展示・物販やシアターなどの設置を計画中です。

また、当社が主催するイベントで、春の「お台場学園」、夏の「お台場冒険王」、冬の「HOT☆FANTASY ODAIBA」など、本社ビルとの連動イベントの展開も検討しています。

一元化による効率アップ

これまで、都内各所に分散したスタジオ・編集所等で番組制作を行ってまいりましたが、新スタジオに一元化することにより、ドラマ、バラエティ、映画、モバイルコンテンツなど、多様化するメディアに適切に対応できる、最新最強のコンテンツ供給体制が整います。

企画から編集・仕上げまでの一貫作業が可能になり、費用効率・作業効率がUP。また、作業の安全性・出演者や番組制作関係者の環境が大きく改善されたことで、制作会社との協力体制が強固になり、より良い番組作りを通して、さらに収益性の高い事業構造が実現できます。

連結貸借対照表 (単位：百万円)

	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	平成19年3月31日	平成18年3月31日
資産の部		
1 流動資産	283,029	261,031
2 固定資産	448,467	431,308
有形固定資産	179,893	154,342
無形固定資産	53,881	45,461
投資その他の資産	214,691	231,504
繰延資産	—	17
資産合計	731,496	692,357

POINT

1 流動資産

有価証券が増加したことなどにより、前期末比219億97百万円の増加となりました。

2 固定資産

投資有価証券の時価評価差益が減少し投資その他の資産が減少しましたが、「臨海副都心スタジオ（仮称）」の建設工事代金の支払いが増加し有形固定資産が増加したことなどにより、前期末比171億58百万円の増加となりました。

3 流動負債

未払法人税等の増加、及び未払金を含むその他流動負債の増加等により、前期末比448億6百万円の増加となりました。

4 純資産の部

当連結会計年度から貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準等を適用しており、少数株主持分が計上されています。従来の「資本の部」の合計に相当する金額は4,629億41百万円です。

	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	平成19年3月31日	平成18年3月31日
負債の部		
3 流動負債	150,545	105,738
固定負債	111,364	114,793
負債合計	261,909	220,532
少数株主持分		
少数株主持分	—	8,921
資本の部		
資本金	—	146,200
資本剰余金	—	175,275
利益剰余金	—	269,855
土地再評価差額金	—	△ 435
その他有価証券評価差額金	—	32,621
為替換算調整勘定	—	237
自己株式	—	△160,851
資本合計	—	462,903
負債、少数株主持分及び資本合計	—	692,357
4 純資産の部		
株主資本	445,723	—
資本金	146,200	—
資本剰余金	173,664	—
利益剰余金	141,364	—
自己株式	△15,505	—
評価・換算差額等	17,217	—
その他有価証券評価差額金	17,448	—
土地再評価差額金	△454	—
為替換算調整勘定	223	—
少数株主持分	6,645	—
純資産合計	469,586	—
負債・純資産合計	731,496	—

連結損益計算書 (単位: 百万円)

	当連結 会計年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前連結 会計年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
5 売上高	582,660	593,493
売上原価	379,444	383,592
売上総利益	203,215	209,901
販売費及び一般管理費	160,889	159,176
6 営業利益	42,325	50,724
営業外収益	7,473	4,998
営業外費用	3,803	5,383
7 経常利益	45,995	50,340
特別利益	230	11,922
特別損失	803	36,147
税金等調整前当期純利益	45,422	26,115
法人税、住民税及び事業税	20,858	9,607
法人税等調整額	△1,036	3,769
少数株主利益	753	1,392
8 当期純利益	24,846	11,345

POINT

5 売上高

広告市況が伸び悩む中、主力のテレビ放送収入が、売上新記録を達成した前期実績に届かなかったことなどから、前期比1.8%の減収となりました。

6 営業利益

放送関連事業が増益となったものの、放送事業の減益に加え、通信販売事業やその他事業の不調もあり、前期比16.6%の減益となりました。

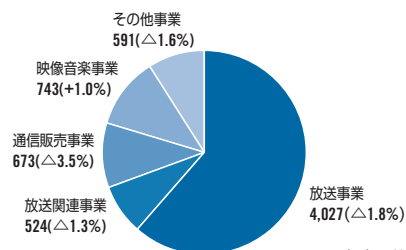
7 経常利益

営業外収益で持分法による投資利益や受取配当金等が増加し、営業外費用では新株発行費や社債発行費が減少しましたが、営業利益の減益をカバーするにはいたらず、前期比8.6%の減益となりました。

8 当期純利益

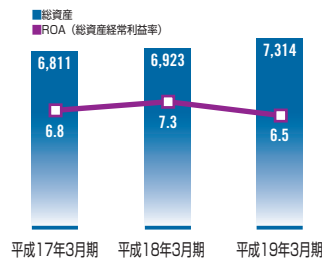
前期に多額の投資有価証券売却損を計上したことの反動による特別損失の大幅な減少などにより、前期比119.0%の増益となりました。

セグメント別売上高 (億円)

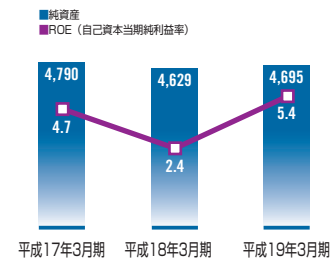


※ () は前期比

総資産 (億円)



純資産 (億円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

	当連結 会計年度	前連結 会計年度
	平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
9 営業活動によるキャッシュ・フロー	60,718	45,786
10 投資活動によるキャッシュ・フロー	△18,206	△69,748
11 財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,013	△28,642
現金及び現金同等物に係る換算差額	18	370
現金及び現金同等物の増減額	33,517	△52,233
現金及び現金同等物の期首残高	71,163	113,408
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	9,988
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△356	—
現金及び現金同等物の期末残高	104,324	71,163

POINT

9 営業活動によるキャッシュ・フロー

前年度法人税等が還付となったことなどにより、前期比149億31百万円の増加となりました。

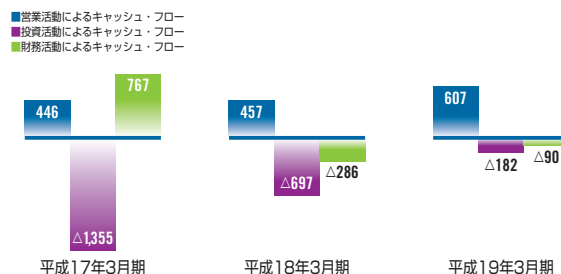
10 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の取得による支出が減少したことや、前期において連結子会社による自己株式の公開買付けがあったことなどにより、前期比515億42百万円の支出減となりました。

11 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入金の返済による支出が減少したことなどにより、前期比196億28百万円の支出減となりました。

キャッシュ・フローの推移 (億円)



連結株主資本等変動計算書 (単位：百万円)

当連結会計年度 平成18年4月1日から平成19年3月31日まで	株主資本				評価・換算差額等				少数株主持分	純資産合計	
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定			評価・換算 差額等合計
平成18年3月31日残高	146,200	175,275	269,855	△160,851	430,479	32,621	△435	237	32,423	8,921	471,825
連結会計年度中の変動額											
剰余金の配当			△9,212		△9,212						△9,212
利益処分による役員賞与			△382		△382						△382
当期純利益			24,846		24,846						24,846
自己株式の消却		△1,610	△143,735	145,346	—						—
土地再評価差額金取崩高			18		18						18
連結範囲減少に伴う減少			△26		△26						△26
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)						△15,173	△18	△14	△15,206	△2,276	△17,482
連結会計年度中の変動額合計	—	△1,610	△128,491	145,346	15,244	△15,173	△18	△14	△15,206	△2,276	△2,238
平成19年3月31日残高	146,200	173,664	141,364	△15,505	445,723	17,448	△454	223	17,217	6,645	469,586

貸借対照表 (単位：百万円)

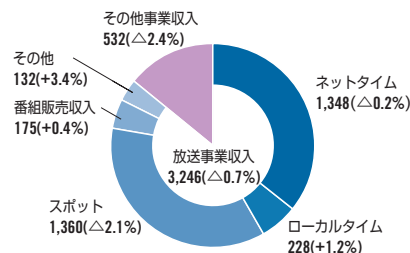
	当事業年度 平成19年3月31日	前事業年度 平成18年3月31日
資産の部		
流動資産	171,624	174,616
固定資産	442,666	540,976
有形固定資産	158,542	132,164
無形固定資産	32,542	31,366
投資その他の資産	251,581	377,444
繰延資産	—	17
資産合計	614,290	715,610

損益計算書 (単位：百万円)

	当事業年度 平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで	前事業年度 平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで
売上高	377,875	381,564
売上原価	245,975	244,825
売上総利益	131,900	136,739
販売費及び一般管理費	96,606	96,934
営業利益	35,294	39,804
営業外収益	5,366	3,627
営業外費用	2,495	3,393
経常利益	38,165	40,038
特別利益	1,677	11,563
特別損失	462	38,523
税引前当期純利益	39,380	13,078
法人税、住民税及び事業税	16,310	5,211
法人税等調整額	△833	2,028
当期純利益	23,904	5,838
前期繰越利益	—	5,522
中間配当額	—	5,599
当期未処分利益	—	5,760

	当事業年度 平成19年3月31日	前事業年度 平成18年3月31日
負債の部		
流動負債	100,643	59,023
固定負債	83,963	80,650
負債合計	184,607	139,674
資本の部		
資本金	—	146,200
資本剰余金	—	175,275
利益剰余金	—	238,446
その他有価証券評価差額金	—	31,196
自己株式	—	△ 15,183
資本合計	—	575,935
負債・資本合計	—	715,610
純資産の部		
株主資本	413,682	—
資本金	146,200	—
資本剰余金	173,664	—
利益剰余金	109,322	—
自己株式	△ 15,505	—
評価・換算差額等	16,000	—
その他有価証券評価差額金	16,000	—
純資産合計	429,683	—
負債・純資産合計	614,290	—

売上高 (単体) の内訳 (億円)



※ () は前年比

■フジテレビグループ（平成19年3月31日現在）

主要な会社	事業内容
放送事業（テレビ放送事業、ラジオ放送事業）	
当社	テレビ放送
(株)ニッポン放送	ラジオ放送
放送関連事業（放送番組の企画制作・技術・中継等）	
(株)共同エディット	VTR編集等の請負
(株)共同テレビジョン	テレビ番組、CM、PR映像等の制作
(株)バスク	テレビドラマ・映画等の制作技術請負
(株)八峯テレビ	番組制作技術
(株)バンエイト	放送番組等の企画制作
(株)フジアール	放送番組、イベント催事の美術企画制作
(株)フジクリエイティブコーポレーション	放送番組販売、番組制作等
(株)フジライティング・アンド・テクノロジー	放送舞台等の照明技術
(株)ベイス	番組制作協力、番組およびビデオ制作
FUJISANKEI COMMUNICATIONS INTERNATIONAL, INC.	放送番組等の企画制作、フジサンケイグループの海外業務受託
通信販売事業（通信販売、生花販売）	
(株)ディノス	通信販売業
(株)フジテレビフラワーセンター（注）	生花通信販売
映像音楽事業（オーディオ・ビデオソフト等の製造販売、音楽著作権管理等）	
(株)シンコーミュージック・パブリッシャーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)フジパシフィック音楽出版	楽譜の出版、内外国楽譜・著作権の管理、原盤の企画・制作
任意組合フジ・ミュージックパートナーズ	音楽著作権の取得、その使用許諾
(株)ポニーキャニオン	オーディオ・ビデオソフトの制作販売
(株)ポニーキャニオンエンタープライズ	録画録音用テープ・ディスクの製造販売
FUJIPACIFIC MUSIC(USA), INC.	音楽著作権の取得、その使用許諾
FUJISANKEI CALIFORNIA ENTERTAINMENT, INC.	音楽出版事業への投資等
T/Q MUSIC, INC.	楽譜の出版、楽譜・著作権の管理、新たな楽譜・著作権の取得
WINDSWEPT CLASSICS, INC.	音楽出版事業への投資等
その他事業（出版、広告、人材派遣、動産リース、ソフトウェア開発等）	
(株)ニッポン放送プロジェクト	リース業
(株)ビッグショット	広告代理業、イベント制作
(株)フジサンケイアドワーク	広告代理業
(株)フジサンケイ人材センター	人材派遣業、有料職業紹介事業
(株)フジミック	情報サービス業
(株)扶桑社	雑誌・書籍の出版

（注）平成19年4月1日に(株)フジテレビフラワーセンターは(株)ディノスに吸収合併されました。

■フジネットワーク28局

UHB	北海道文化放送（株）
MIT	（株）岩手めんこいテレビ （株）仙台放送
AKT	秋田テレビ（株）
SAY	（株）さくらんぼテレビジョン
FTV	福島テレビ（株） （株）フジテレビジョン
NST	（株）新潟総合テレビ
NBS	（株）長野放送
SUT	（株）テレビ静岡
BBT	富山テレビ放送（株）
ITC	石川テレビ放送（株）
FTB	福井テレビジョン放送（株）
THK	東海テレビ放送（株）
KTV	関西テレビ放送（株）
TSK	山陰中央テレビジョン放送（株）
OHK	岡山放送（株）
TSS	（株）テレビ新広島
EBC	（株）テレビ愛媛
KSS	高知さんさんテレビ（株）
TNC	（株）テレビ西日本
STS	（株）サガテレビ
KTN	（株）テレビ長崎
TKU	（株）テレビ熊本
TOS	（株）テレビ大分
UMK	（株）テレビ宮崎
KTS	鹿児島テレビ放送（株）
OTV	沖縄テレビ放送（株）


 代表取締役社長
磯原 裕

ニッポン放送は「音声を中心とした日本一元気なソフトクリエイティブカンパニー」を標榜し、リスナー、スポンサーニーズを捉えた番組発信、コンサート、演劇、映画等のイベントおよび出版、さらにインターネットラジオや携帯サイト、デジタルラジオに代表されるデジタルコンテンツなど幅広い事業展開を行っています。

多メディア時代のトップランナーとなるべく全社員アンテナを張り巡らし業務に励んでいます。

「ニッポン放送があるじゃないか！」これが今年の編成キャッチフレーズです。

ニッポン放送があるじゃないか!

■ Corporate Profile | 事業内容

◎ AMラジオ放送

人気パーソナリティによるバラエティ豊かな番組が目白押し

テリー伊藤、高田文夫、和田アキ子、ナインティナイン、くりいむしちゅー、長澤まさみ、福山雅治、中居正広…etc. 深夜放送の草分け番組「オールナイトニッポン」は、今年、40周年を迎えました。

ナイター聴取率No.1かつ豊富な野球コンテンツの中継

ニッポン放送は2006年度もラジオナイター聴取率1位を獲得。さらにMLBもラジオ独占中継!“ハンカチ王子”で話題沸騰の東京六大学野球もカバーします!

ラジオの枠を超えたキャンペーン・ムーブメント

昨年で32回を迎えた「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」は目の不自由な方が安心して街を歩けるように「音の出る信号機」を設置するための基金を募る、24時間生放送チャリティ・キャンペーン番組です。毎年クリスマスイブの正午から24時間生放送を行い、これまでに37億4,009万4,801円の募金が集まりました。

また、昨年からは始まったニッポン放送オリジナルの番組祭り「ザ・ラジオパーク」には2日間で10万5千人が来場。リスナーと番組が直接触れ合える新しいタイプのイベントを実施しました。

◎ デジタル放送

ニッポン放送の新デジタル放送「Suono Dolce (スオーノ・ドルチェ)」は東京丸の内発信、日本初のラブソング専門ステーションです!

Suono (スオーノ)はイタリア語で「サウンド」、Dolce (ドルチェ)は「スウィート」、つまり、全編「スウィートサウンド」の甘いラブソングが1日中流れる放送局です。洗練された大人のランドマーク、丸の内から新旧洋邦…ジャンルを問わず、世代を超えたラブソングをたっぷりお届けします。

また、日本初の1セグメント内での音声放送と、地上デジタルテレビの「ワンセグ」の約60%のビットレート(伝送容量)での簡易動画放送を実現しました。

◎ エンターテインメント

コンサート、舞台製作などのイベントから、番組関連本の出版、ラジオ通販など放送事業外収入となる幅広い分野の仕事を手がけています。


 オールナイトニッポン
 40周年記念渋谷AXライブ

Suono Dolce



放送は朝9時から夜12時までの1日15時間。[Suono Dolce~Love Songs from Marunouchi]
 デジタルラジオ95チャンネル、そしてインターネットwww.suono.jpで同時放送です。


 「車いすのバティシエ」
 ロックミュージカル
 「ヘドウィグ・アンド・アングリーインチ」


■ Corporate Data | 会社概要

商号	株式会社ニッポン放送
所在地	〒100-8439 東京都千代田区有楽町1-9-3(本社)
開局	昭和29年7月15日
設立	平成18年4月1日
資本金	4億8千万円
売上高	249億4,700万円(平成18年度)
従業員数	181名(平成19年3月末現在)
営業所	東京、横浜、千葉、さいたま、名古屋、大阪
送信所	千葉県木更津市
周波数	1242kHz
送信出力	100kW

■ Corporate History | 会社沿革

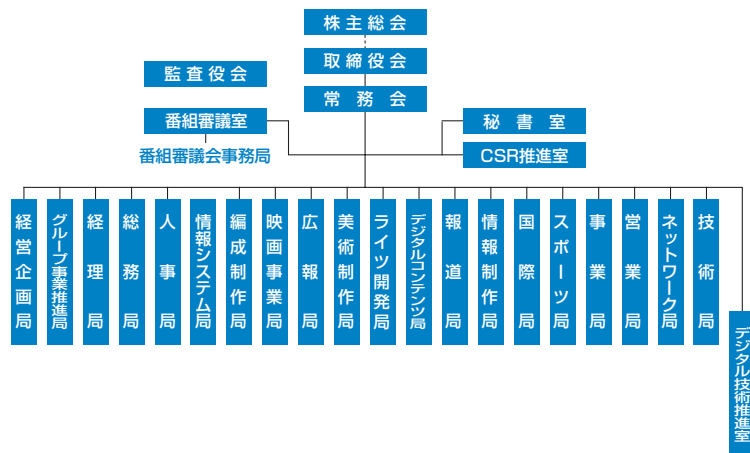
昭和29年4月	旧ニッポン放送設立
昭和29年7月	開局(本放送開始)
昭和32年6月	フジテレビジョンを設立し、テレビ免許を申請
昭和34年10月	わが国初の24時間放送開始
昭和39年3月	オーディエンス・セグメンテーション編成開始
昭和42年10月	「オールナイトニッポン」放送開始
昭和51年12月	第1回「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」を実施
平成4年3月	AM(中波)ステレオ放送開始
平成8年12月	東京証券取引所市場第二部に株式上場
平成9年3月	臨海副都心・港区台場地区に本社移転
平成16年9月	有楽町新本社ビル移転
平成17年7月	上場廃止
平成17年9月	フジテレビジョンによる完全子会社化
平成18年4月	新設分割により新ニッポン放送設立

□ 会社概要 (平成19年3月31日現在)

商号 株式会社フジテレビジョン
Fuji Television Network, Inc.
設立 昭和32年11月18日
放送開始 昭和34年3月1日
決算期 3月31日
資本金 1,462億35万円
従業員数 1,423名
事業所

本社スタジオ 〒137-8088 東京都港区台場二丁目4番8号 03-5500-8888 (大代表)
送信所 〒105-0011 東京都港区芝公園四丁目2番8号 東京タワー内
関西支社 〒530-0004 大阪市北区堂島浜一丁目4番4号 アクア堂島東館 (EAST17階)
名古屋支社 〒461-0005 名古屋市東区東桜一丁目14番25号 テレビア13階
横浜支局 〒231-0005 横浜市中区本町二丁目22番地 日本生命横浜本町ビル
前橋支局 〒371-0026 前橋市大手町二丁目6番17号 住友生命前橋ビル8階
海外支局・事務所 ニューヨーク、ワシントン、ロサンゼルス、ロンドン、パリ、ベルリン、カイロ、モスクワ、北京、ソウル、バンコク、クアラルンプール、ローマ事務所

□ 組織図 (平成19年3月31日現在)



□ 役員 (平成19年6月28日現在)

代表取締役会長	日 枝 久
代表取締役社長	豊 田 皓
取締役副社長	横 井 亮 介
専務取締役	太 田 英 昭
常務取締役	嘉 納 修 治
常務取締役	小 櫃 真 佐 己
常務取締役	内 堀 眞 澄
常務取締役	飯 島 一 暢
常務取締役	堀 口 壽 一
常務取締役	瀬 田 宏
取締役	久 保 田 榮 一
取締役	小 林 豊
取締役	遠 藤 龍 之 介
取締役	鈴 木 克 明
取締役	松 岡 功
取締役	佐 藤 重 喜
取締役	石 黒 大 山
取締役	出 馬 迪 男
取締役	別 府 隆 文
取締役	清 原 武 彦
常勤監査役	尾 上 規 喜
常勤監査役	近 藤 俊 一 郎
常勤監査役	伊 藤 八 朗
監査役	茂 木 友 三 郎
監査役	南 直 哉

□ 株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	68,939名

(注) 株式数および株主数は自己株式を含んでおります。

□ 大株主

株主名	持株数 (株)	比率 (%)
東宝株式会社	183,221	7.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	117,329	4.96
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	104,898	4.44
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505025	83,881	3.55
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
ゴールドマン・サックス・インターナショナル	56,386	2.38
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
エイチエスピーシーバンクピーエルシー クライアantz ノンタックス トリーティ	45,920	1.94

(注) 上記のほか当社所有の自己株式61,202株、証券保管振替機構名義の株式180,991株があります。

お知らせ

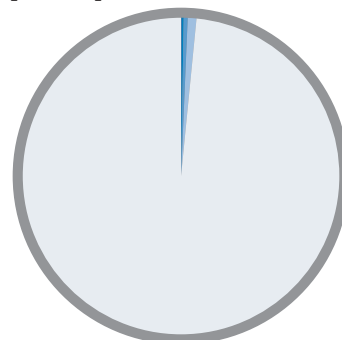
フジテレビのHP上に「IR情報」が掲載されています。最新のIRニュースや決算情報などがご覧頂けます。

フジテレビHP→
企業関連コンテンツ「IR情報」
<http://www.fujitv.co.jp/>

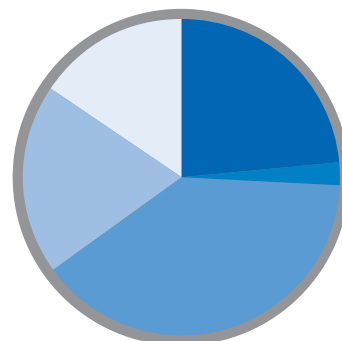


□ 所有者別株式分布状況

【株主数】



【株式数】



(注) 「国内法人」には証券保管振替機構(180,991株)が、「個人その他」には自己株式(61,202株)がそれぞれ含まれております。

株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
剰余金の配当	決算期における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
中間配当	取締役会の決議により、中間配当を実施する場合は、毎年9月30日における株主名簿および実質株主名簿に記載または記録された株主または登録株式質権者にお支払いいたします。
外国人等の株主名簿への記載・記録の制限等	当社は、放送法で定める外国人等（①日本の国籍を有しない人、②外国政府またはその代表者、③外国の法人または団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人または団体）の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が議決権の20%以上となる場合には、電波法の規定により、放送免許が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法第52条の8第1項および第2項の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿（実質株主名簿を含む。）への記載・記録を拒否し、または、同条第3項の規定に基づき、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。 なお、当社は、外国人等の有する議決権数の議決権総数に占める割合が15%以上となった場合には、放送法第52条の8第4項および放送法施行規則第17条の3の5の規定により、6か月ごとに公告を行います。
株式の名義書換株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問い合わせ先)	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載紙	産業経済新聞

